Medical & Welfare Care
春回会グループ
www.shunkaikai.jp

社会医療法人　春回会

【救急告示病院】
【日本医療機能評価機構認定病院】
井上病院
〒850-0045 長崎県長崎市宝町6-12
TEL.095-844-1281
FAX.095-849-6622
www.shunkaikai.jp/inoue/

【地域脳卒中センター】
【日本医療機能評価機構認定病院】
長崎北病院
〒851-2103 長崎県西彼杵郡時津町元村郷800番地
TEL.095-886-8700
FAX.095-886-8701
www.shunkaikai.jp/kita/

【緩和医療病院】
【日本医療機能評価機構認定病院】
出島病院
〒850-0862 長崎県長崎市出島町12-23
TEL.095-822-2323
FAX.095-822-8855
www.shunkaikai.jp/dejima/

春回会クリニック
〒852-8105 長崎県長崎市目覚町7-2
HCS長崎ビル6F
TEL.095-865-6318

井上病院健診センター
〒852-8105 長崎県長崎市目覚町7-2
HCS長崎ビル6F
TEL.095-844-1481（予約専用）
TEL.095-843-3777（代表）
FAX.095-865-6326
www.shunkaikai.jp/medical/

春回会グループ法人事務局
〒850-0045 長崎市宝町7-17
TEL.095-845-1014
FAX.095-845-3600

地域在宅支援センター

春回会クリニック
通所リハビリテーション
TEL.095-865-6239
FAX.095-865-6380

春回会クリニック
訪問リハビリテーション
TEL.095-865-6229
FAX.095-865-6380

訪問看護ステーション
ひまわり 宝町
〒852-8105 長崎県長崎市目覚町7-2
HCS長崎ビル4F
TEL.095-848-0880
FAX.095-848-0882
www.shunkaikai.jp/himawari/

ケアプランセンター
ひまわり
TEL.095-865-6294
FAX.095-848-0882

ヘルパーステーション
めざめ
TEL.095-865-8885
FAX.095-865-8778

訪問看護ステーション
ひまわり
〒852-8502 長崎県長崎市岩屋町26-17
TEL.095-855-3881
FAX.095-855-3860
www.shunkaikai.jp/himawari/

住宅型有料老人ホーム
春の家
www.shunkaikai.jp/harunoie/
■ながよ
〒851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷2101-1
TEL.095-857-7310
FAX.095-894-5110

■ゆりの
〒851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷2357-1
TEL.095-856-8611
FAX.095-894-7415

■とぎつ
〒851-2108 長崎県西彼杵郡時津町日並郷1052-9
TEL.095-894-7250
FAX.095-894-7251

社会福祉法人　白鳥蘆花の会

特別養護老人ホーム
めざめ

ショートステイ
めざめ

〒852-8105 長崎県長崎市目覚町7-2
HCS長崎ビル2F･3F
TEL.095-865-8830
FAX.095-865-8778

未来への報告書

法人年報 2017

社会医療法人 春回会
社会福祉法人 白鳥蘆花の会

“地域とまちと人 生と”ともに歩む。

春回会 理事長
井上 健一郎

法人年報発行に向けての挨拶と社是に込めた想い

長崎医療圏の高齢者(65歳以上)人口は徐々に増加し2025年には35%、2040年には40%に達すると予測されています。なかでも5歳刻みでの人口予想を見ると、2025年に85歳以上が最大のグループ(約33,000人)となり他のグループはその後に減少に転じるのにかかわらず唯一増加を続け、2035年には4万人を超える予想です。井上病院の入院患者予測でも65歳以上は現在の6割から7割に増えるだけですが、85歳以上は現在の2割から4割近くになると考えられます。

これらの超高齢化が進んだ状態で、病院の中はどのようなことが起こるでしょうか。

- 超高齢者であっても侵襲的な診療を必要とする患者は一定の数あると思われますが、若年層と比べ他の併発疾患、複雑な社会的背景(独居であったり金銭的問題など)を有している可能性が高い。
- 施設に入居している方の比率が上がる。
- 重度化しても「時々入院、ほぼ在宅」の患者さんを支える体制を作る必要がある。

これらを踏まえ、各施設で高齢化に対応した医療が実施できる体制を構築することに加え各施設の在宅・介護部門を整理し、全体で入院前から退院直後、そして在宅へとその流れを支える体制を作るために特別養護老人ホーム・有料老人ホームの整備、在宅を支援するサービスの組織化を進めているところです。

これらの動きはまだまだスタートしたばかりで有効に機能しているといえる状態にありませんが、私たちのグループとしての1年間の記録を纏めてみました。ご高覧いただければ幸いです。

INDEX

Top message — 1P
“地域とまちと人生と”ともに歩む。
春回会 理事長 井上 健一郎

理念/組織図/沿革 — 3P

医療・保健・福祉のサポート体制 — 5P
サービスを包括的に提供。

5つの施設情報 — 7P
井上病院・長崎北病院・出島病院・
健診/クリニック・地域在宅支援センター

医療・福祉現地のActivity-1 — 29P
イベント(合同入社式・合同研究発表会)

医療・福祉現地のActivity-2 — 31P
地域活動

DATA:数字で読み解く
春回会グループ — 32P

2017年度 入職者インタビュー — 37P

社会医療法人 春回会

井 上 病 院

高度医療設備と技術で急性期医療の提供。

長 崎 北 病 院

神経内科とリハビリテーションを専門とした
「脳・神経疾患医療」の拠点。

出 島 病 院

緩和医療、緩和ケアをチームで取り組む医療。

クリニック／健診

予防医学の最前線とした健診で、予防・早期発見で健康。

地域在宅支援センター

自宅・施設での生活を支援。

社会福祉法人 白鳥蘆花の会

特別養護老人ホーム・ショートステイ　めざめ

地域の包括的な福祉・ケアサービスを提供。

医療・介護を通じて
安心を提供する

沿　革

1919年（大正８年）	長崎市御船蔵町に診療所として開設
1958年（昭和33年）	医療法人社団 春回会 発足
1965年（昭和40年）	長崎市宝町に 井上病院 開設（病床数48床） 院長 井上満治
1969年（昭和44年）	井上病院改築（病床102床）
1978年（昭和53年）	長崎市滑石に 長崎北病院 開設（病床数70床） 院長 豆谷源一郎
1980年（昭和55年）	長崎北病院 増床（病床数210床）
1988年（昭和63年）	井上病院 院長に井上哲治 就任
1989年（平成元年）	検診センター 春回会クリニック 開設
1993年（平成５年）	長崎北病院 総合リハビリテーション 承認
1994年（平成６年）	長崎北病院 院長に辻畑光宏 就任
1995年（平成７年）	訪問看護ステーション ひまわり 開設
1998年（平成10年）	長崎北病院 病床数を200床に減じ、10床を 井上病院へ移動
1999年（平成11年）	井上病院 長崎市宝町6-12へ移転開設 （病床数112床） 検診センター 春回会クリニック廃止、 井上病院へ吸収
2000年（平成12年）	在宅介護センター 春回会なめしを 長崎北病院に開設　特別医療法人認可
2001年（平成13年）	井上病院 財団法人日本医療機能評価 機構　認定証発行病院（一般病棟種別A） 井上病院 院長に井上健一郎 就任
2007年（平成19年）	長崎県西彼杵郡時津町に長崎北病院移転開設
2008年（平成20年）	長崎北病院 院長に佐藤聡 就任
2011年（平成23年）	社会医療法人認可 健診センター移転 センター長に高橋淳 就任
2012年（平成24年）	春回会理事長に井上健一郎 就任 井上病院 院長に泉野清宏 就任
2014年（平成26年）	医療法人医新会出島病院 統合 事業譲渡による
2016年（平成28年）	ヘルパーステーション めざめ 開設 社会福祉法人 白鳥蘆花の会 設立
2017年（平成29年）	住宅型有料老人ホーム 春の家 運営開始 出島病院 院長に北條美能留 就任 長崎市目覚町にHCS長崎ビル 建設 春回会クリニック・健診センター HCS長崎ビル へ移転開設 特別養護老人ホームめざめ、 ショートステイめざめ 設置

地域を 支える
医療・介 護の提供

救急指定病院　井上病院

高齢者にも対応でき、地域から求められる
急性期医療の提供を行います。

私たちは長崎の地で、医療あるいは介護を通じて、皆さまが安心して生活していける街づくりを行う事を目指しております。

理　念

医療を通じ地域の方へ
安心を提供すること

絶え間ない質の改善を
行うこと

自分や自分の家族が
受けたい医療を行うこと

働きがいのある
明るい職場をつくること

地域脳卒中センター　長崎北病院

神経内科とリハビリテーションの
専門性を追求した、
「脳・神経疾患センター」を目指す!!

理　念

患者様最優先（PF：Patients First）
の医療を行う
～思いやりの心・質の高い医療・明るい職場～

緩和医療　出島病院

緩和医療を行っている病院です。
拠点病院等に入院されている方、
在宅で過ごされている方々の療養をお受けいたします。

理　念

すべては患者様とご家族様のために
～寄り添い、共に、よりよく、その人らしく～

クリニック／健診

皆さまの健康を願い、最新設備と健診技術で、
病気予防や早期発見を確実に!!

健診で未来の安心をサポートします

もしも if を見逃さない!!

あなたの健康は、あなたの未来とあなたの大切な人の未来の生活をつくる基盤になります。「気がついたときには」という状況になる前に、未来の自分へのプレゼントとして人生の節目に健診を受けてみませんか。

地域在宅支援センター

地域の方が安心して暮らせるよう、
医療と介護サービスをつなぎ合わせ支援します

理　念

生活を支える
医療・介護を構築し、
居宅生活の限界点を
高める

特別養護老人ホーム　めざめ　ショートステイ　めざめ

ご利用者、ご家族、職員、地域
それぞれの自己実現のために!

理　念

「いきる」を支え、「ひと」を大切にする

救急指定病院

井上病院

社会医療法人春回会 井上病院
院長　泉野 清宏

安心を提供する医療と介護を整えていく

日本列島の西の端、長崎。江戸時代海外との交易が唯一許され港が世界に広がる町であり、キリスト教への禁教時代に潜伏し布教が行われた歴史を持つ土地である。歴史を観ることができる観光地として、平和を伝える土地として、また食べ物が豊富でおいしい町として魅力は多いが、自然減少と若者の流出から長期にわたっての人口減少と高齢化は大きな問題である。現在これからの長崎がどのように発展していくかの活性化計画が議論されている。長崎駅周辺については、新幹線長崎ルートの開通や、国際会議場やホテル、サッカー場建設などの計画が話題となっている。観光地として経済的に発展しながら、若者が地域で活躍し、高齢者が暮らしやすい長崎へ変わり行くことは誰しも期待していることである。

長崎は、150年前から世界へ拡がる港を持ち西洋医学発祥の土地でもある。医学の先端であった長崎が、人口の減少と高齢化という現代社会の問題を医療で地域を支えることができる範となる町とならねばならない。

さて私達は医療と介護分野を通じて地域を支える形を持つことができた。予防医療から始まり、急性期の治療から必要に応じて支える医療、医療と連携した介護支援という体制をそろえることができた。地域社会がどのように変わっていくかを見据えながら、「安心を提供する医療と介護」を整えていくのはこれからである。微力ではあるが住み慣れた地域での生活の支えになっていかねばならない。そしてまた若い人たちが働きがいのある魅力ある地域にもしていきたい。今後の長崎の変貌に大きな期待を持ち、私達も医療の分野で魅力ある街づくりの一翼を担える組織になっていきたい。

特別支援学校と協力して ～就労支援の取り組み～

社会医療法人春回会 井上病院　事務長　牟田 作穂

今後、医療・介護の現場では人材の確保が難しくなることが予想されます。

そこに特別支援学校で一般就労を目指す生徒の雇用を考えられないか、また、障害者雇用について医療機関として社会的責任を果たしていくうえで、どのように雇用の場を創出していくかということで、長崎県内の病院事務長有志と県内の特別支援学校高等部（4校）で進路指導を担当する先生方で、平成29年2月に合同勉強会を立ち上げ、当院も参加し実習生を受入れ就労へと繋げる取り組みを開始しました。

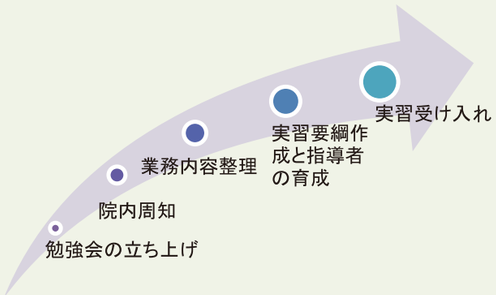
まずは現状を知ることがその第一歩と考え、特別支援学校の生徒の特性を理解するため、学校見学をさせて頂き、学校側との事前打合せ、仕事内容の決定、実習指導者の人選、当院職員への周知等を行い、平成29年度に初めて鶴南特別支援学校から実習生の受入れを行いました。

仕事内容は、看護補助者の補助業務を中心に業務を組み立て、6月、10月、1月と3度の実習を受入れ、実習前後では学校側と密な情報交換を行い、取り組み1年目にして雇用へと繋げることができました。これは、実習を通して、その特性を理解した上で、段階的に業務を増やしていき、早出、遅出勤務への対応、雇用を見据えた実習計画をもとに無理無く進めることができたのがその要因と考えます。

今回の実習受入れにあたり、関係部署との調整、また実習生のフォロー等に関わってくれた職員、実習現場で丁寧な指導にあたってくれた担当者、各現場で温かく接してくれた職員の皆さんに感謝します。

最後に、平成28年4月1日から「障害を理由とする差別の解消に関する法律」が施行され、この法律は、『障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、共に生きる社会をつくることを目指しています』と規定しています。

これに先だち長崎県においても「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」を平成26年4月に施行して、障害のある人の社会参加を推進し、共生社会の実現を目指しています。当院に於いても、障害のある人もない人も、共に働ける職場作りを目指し、今後も積極的に障害者雇用を進めていきたいと考えています。



病院内の必要な物品を整える仕事です

救急指定病院 井上病院

ロコモティブシンドロームの提唱

田中 尚洋 医師・川口 耕平 医師

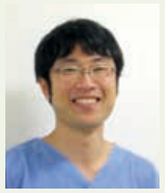
2017年4月より2名体制（川口、田中）で整形外科外来、入院での診療を開始いたしました。月曜から土曜日（第5土曜日は休止）まで毎日外来診療を行っています。また可能な限り、時間外の急患も積極的に受け入れています。

～人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻の如くなり～

みなさんご存知の織田信長の言葉で【人間の一生は所詮五十年に過ぎない。天上世界の時間の流れにくらべたらまるで夢や幻のようなものであり、命あるものはすべて滅びてしまうものなのだ。】という意味です。

織田信長がなくなってから約435年の月日が経ちました。日本は世界にさきがけて高齢社会を迎え平均寿命は約80歳になっています。これに伴い運動器の障害も増加しています。

田中医師


川口医師

二人とも長崎出身、長崎大学卒業です。

入院して治療が必要となる運動器障害は50歳以降に多発しています。このことは多くの人にとって運動器を健康に保つことが難しいことを示しています。多くの人々が、運動器をこれほど長期間使用し続ける時代は、これまでありませんでした。整形外科学会では運動器の障害による機能低下を表す新しい概念として「ロコモティブシンドローム」を提唱しました。いつまでも自分の足で歩き続けていくために、運動器を長持ちさせ、ロコモティブシンドロームを予防し、健康寿命を延ばしていくことが今、必要なのです。

整形外科はADLに直結する科であり、超高齢化社会となった今、ニーズの非常に高い診療科になっていると考えます。井上病院整形外科では外傷から慢性疾患（変形性関節症、脊椎）まで幅広く診療を行っています。

40代女性：橈骨遠位端骨折

80代女性：右大腿骨骨折

70代女性：右上腕骨骨折

70代男性：頚髄症

70代男性：変形性膝関節症

病院概要

病床数

112床（一般病床：100床（7対1入院基本料）　地域包括ケア病床：12床）

診療科

・内科・消化器内科・内視鏡内科・循環器内科
・呼吸器内科・感染症内科・糖尿病内科・腎臓内科
・人工透析内科・老年内科・神経内科・外科
・胸部外科・乳腺外科・消化器外科・内視鏡外科
・大腸・肛門外科・形成外科・整形外科・脳神経外科
・眼科・麻酔科・放射線科・リハビリテーション科
・皮膚科

認定・研修施設

①日本内科学会教育関連施設
②日本消化器病学会認定医制度認定施設
③日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設
④日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
⑤日本外科学会外科専門医制度関連施設
⑥日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設関連施設
⑦日本呼吸器学会関連施設
⑧日本大腸肛門病学会認定施設
⑨日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
⑩社団法人日本老年医学会認定施設
⑪臨床研修協力施設（長崎大学）
⑫（財）日本医療機能評価機構認定病院3rdG：Ver.1.1

地域脳卒中センター 長崎北病院

社会医療法人春回会 長崎北病院
院長 佐藤　聡

2017年を振り返って

当院が現在の場所に新築移転・開院したのは2007年10月1日。2017年10月1日でちょうど10周年となりました。

この間、内科・神経内科・リハビリテーションの診療に集中する事で「専門性を活かした特色のある病院（only one）」を目指すという当院のコンセプトは変わっていません。しかし、人口減少や病気の変化、医療保険を含めた医療制度の改変を受けて、最近数年の各種データは頭打ちです。2017年もそこそこの数字は揃っていますが少なくとも10年前の勢いは無いと感じます。しかし、停滞気味なのは外的な要因だけだろうか、自分たち（当院）に問題は無いだろうかと考える必要があります。10年以上は同じコンセプトで仕事をしています。慣れた仕事を続けていれば安全・安定です。熟成はされますがマンネリ化し、停滞します。今のままでもしばらくはやっていけるかもしれません。しかし、それだけでは少しずつ取り残され、勢いや輝きはなくなっていきます。2018年にはMRIの入れ替えや通所リハ室の拡大、地域交流サロン新設のために別館の建設が始まります。建物だけではなく、内容的にも変化を厭わない事が必要です。安定を求めれば取り残されます。見た目は大きくは変わらなくとも、しばらく見ないうちに中身は変わっていることを目指したいと思います。

長崎北病院における認知症ケアチームの活動

社会医療法人春回会 長崎北病院 認知症看護認定看護師　福島　さや香

長崎北病院では認知症ケア加算1を算定するため、2016年8月に認知症ケア委員会を立ち上げ、2017年2月から加算開始をしています。認知症ケア加算1は入院後14日までは日々150点の加算があるため、できる限り入院当日に初回訪問を実施し算定開始しています。昨年度の認知症ケア加算対象者は総計941名でした。

委員会の活動としては、委員会メンバー（医師、看護師、MSW等）による認知症ケアチームが、認知症症状を有する入院患者の状況を確認し、病棟での困りごとやケアの内容の相談・助言を行っています。また、病棟での取り組みや介入の結果を評価し、認知症患者への対応が効果的に遂行できるよう、週1回のラウンドを実施しています。

ラウンド時には、カンファレンスを実施し、患者の状態、環境変化が及ぼす不安やBPSDなどへのケア、治療内容に対しての見直しや情報共有を行っています。認知症への理解や認識の向上、安心して過ごせる入院環境の調整、看護スタッフが疲弊しない状況の支援を認知症ケアチームの活動目標として取り組んでいます。

今後は、認知症患者・家族が入院中だけでなく退院してからも安心した生活を支えられるよう院内・院外での連携の実践、「北病院に入院して良かった」と思ってもらえるような活動を目指していきたいと思います。

地域脳卒中センター 長崎北病院

ロボットスーツHAL®を用いたリハビリテーションについて

総合リハビリテーション部士長（理学療法士） 本多 歩美

長崎北病院では、脳・神経疾患の専門的な治療と並行し、最先端機器やロボットを用いた先進的なリハビリテーションを提供しています。

2010年より導入したHybrid assisted limb®（HAL）もその一つで、装着者の運動意図を読み取り、起立・歩行などを支援するロボットです。

2014年12月にはHAL®医療用下肢タイプが厚生労働省より医療機器として承認され、2016年10月に当院にも導入しました。

現在、当院が長崎県で唯一、医療用HALを用いた治療を行える施設となっています。

また、当院ではHAL治療の技術向上に向けて様々な分野の研究・研修会を行っています。二名の理学療法士が安全使用講習講師資格を修得し、国内に三カ所しかないHAL運用教育基幹施設の一つとして、職員のみならず、積極的に全国から研修生を受入れ、HAL治療の臨床応用推進の一役を担っています。

今後も益々効果的なリハビリテーション手法の一つとして、患者さんに提供することができればと考えています。

病院概要

病床数

200床

（一般病棟:80床（7対1入院基本料） 回復期リハビリテーション病棟：80床 医療療養病棟：40床）

診療科

・内科 ・神経内科 ・リハビリテーション科
・放射線科 ・循環器内科

認定・研修施設

①日本神経学会認定教育施設
②日本脳卒中学会研修教育病院
③日本リハビリテーション医学会認定研修施設
④日本認知症学会認定教育病院
⑤日本内科学会教育関連病院
⑥日本老年医学会認定施設
⑦日本放射線技師会臨床実習指導施設
⑧（財）日本医療機能評価機構認定病院3rdG：Ver.1.1

緩和医療 出島病院

社会医療法人春回会　出島病院
院長　北條　美能留

2017年度を振り返って

出島病院は緩和ケア病棟を有する特長ある病院であり、2017年度からは、緩和ケアを中心に行っていく病院へと少しずつシフトしてきました。まず、緩和ケアスキルアップのための院内外の勉強会と地域連携を柱としたケースカンファランスを開催し、『出島塾』という命名で地域の多職種と連携を取りながら、地域に開かれた緩和ケア病棟を目指しスタッフ一丸となって取り組んでまいりました。地域スタッフとの研修会は、各種症状緩和のスキルアップだけではなく、お互い、顔の見える連携の構築が作れ、円滑な地域連携に役立つものとなっています。何より継続していくことが大切なことだと思っています。

そして、2017年度は病院機能評価更新の年であり、今年度は新しく、緩和ケア病棟を有する病院のための病院機能評価機能種別版評価項目緩和ケア病院3rdG;Ver1.1を取得しました。取得のため、各種委員会、マニュアルなどを見直し、必要なものは追加していきました。職員のみなさんの頑張りが評価されたものと思っています。

また、2017年度は、医療・介護の同時改定の年でした。緩和ケア病棟も評価基準が変わり在院日数、待期期間、在宅復帰率などが新しく評価の対象となりました。当院としても、新しい基準を目標として活動していきたいと考えています。さらに、患者さんが安心して在宅で過ごせるような支援も重要と考え、在宅からの緊急入院には100％受け入れができるよう調整していきたいと思います。患者さん、ご家族、地域のスタッフがより良い形で当院を利用していただけるよう、緩和医療における地域のハブ病院として機能強化、体制作りに努めていきたいと思います。

―病院機能評価認定更新について―

病院機能評価とは、（財）日本医療機能評価機構が行う病院の機能及び医療の質に関する第三者評価で、一定の評価基準が提示されています。

今回、出島病院は当機構の定める認定基準を達し、病院機能評価（3rdG：Ver 1.1）の認定を更新しました。当認定は2003年3月17日に初回認定を受け、今回が4回目の認定更新になります。今後とも更なる病院の機能や質の向上を目指してまいります。

今年度新たに取得した病院機能評価認定証

―出島塾―

出島病院は緩和ケアに特化した病院であるため、スタッフ全員が高度な緩和ケアに関する知識技術を持つことが求められます。当院の研修は『出島塾』と命名しており、①特別講演を年2回、②看護部研修を毎月1回、③ケースカンファレンスを3ヵ月に1回計画しています。①と②は公開講座として、院外の医療者の方にも参加していただいています。③は当院と連携してくださった在宅の医療者の方と一緒に、連携した患者様について事例検討とミニレクチャーを行っています。

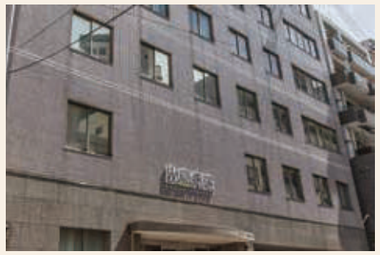
高度な知識技術の取得を目指しています

2018年度出島塾スケジュール　カリキュラム項目	日程	公開	担当者
1. 緩和ケアと疼痛マネジメントにおける看護師の役割	4月10日	公開	中嶋看護部長、岩本
2. がん性疼痛コントロールの基本	5月8日	公開	北條院長
3. 事例検討（疼痛）	6月12日	公開	岩本、古田
4. 呼吸器症状、症状マネジメント：鎮静	7月10日	–	池田主任、古田
5. 症状マネジメント：消化器症状	9月11日	–	清水主任、岩本
6. 症状：せん妄、全身倦怠感	10月9日	–	大角主任、古田
7. 家族ケア	11月13日	公開	古田
8. 症状マネジメント：リンパ浮腫	12月11日	公開	岩本
9. 最期の数日のケア	1月8日	公開	古田
10. 終末期患者の心理とスピリチュアルケア	2月12日	公開	中嶋看護部長
11. 事例検討	3月12日	公開	古田、岩本

緩和医療 出島病院

―地域医療連携室―

出島病院の地域医療連携室は、現在3名（看護師2名・MSW1名）が所属しており、当院での特徴的な業務内容は入院相談を受け、緩和面談を行い、院内の会議で合意されると入院調整を行うことです。平成29年度の平均面談数は、月に33件で毎年増加傾向です。また、病状が安定すれば次の療養先の検討・調整を行い、昨年はほぼ2～3割の方が一旦退院されています。私たちは、他職種と連携し日々、患者様・ご家族のQOL向上を目標に努めています。



地域医療連携室の相談窓口

―リハビリテーション―

平成27年度の開設以来、終末期がん患者とその家族のQOL・満足度向上を目的としたリハビリテーションを多岐にわたって展開しています。

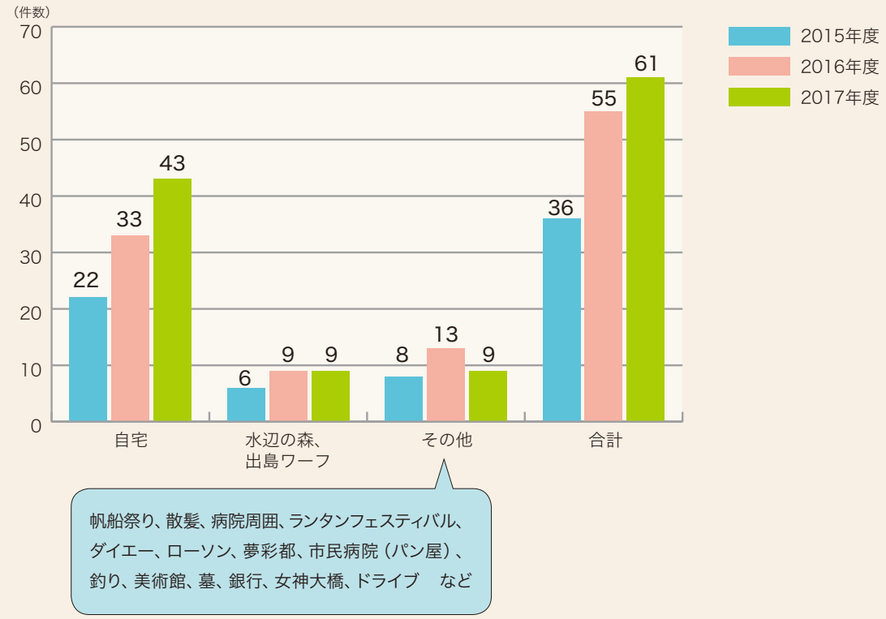
当科開設より実施している外出支援は、患者・家族に好評であり、実施件数は年々増加しています。また対外活動として、当院で行っているリハビリテーションの活動や症例報告を県内外の学会や勉強会でも積極的に発表し、全国的に少ない終末期がん患者のリハビリテーションの啓発に努めています。

実際の外出時の様子　　芝生にごろん♪

院内車でいつもの釣り場へ

狭い道もなんのその！

外出支援の件数と推移



病院概要

病床数

41床（緩和ケア病棟：20床　一般病床：21床（10対1入院基本料））

診療科

・緩和ケア内科 ・内科 ・リハビリテーション科
・緩和看護外来

認定・研修施設

①（財）日本医療機能評価機構認定病院 3rdG：Ver1.1
②日本ホスピス緩和ケア協会認定病院

クリニック/健診

社会医療法人　春回会クリニック
院長 兼 健診センター長　高橋　淳

2017年の春回会クリニック･健診センターを振り返って

2017年は健診センターにとって新たな展開を計る転機となった。2011年5月にそれまでの井上病院春回会ビルから隣の三星ビルに拠点を移し健診を行ってきた。この間に健診者数は16000人台から25000人台へと増加した。しかし、増加する健診者に対応するためには手狭となっていたことも事実であった。

2017年10月目覚町にHCSビルが完成し当センターも5階6階に移転することになった。従前に比しフロア面積が拡大し、かつ男性と女性の動線が重ならない健診が可能となった。また女性健診者に対する一般の診察は原則女性医師が担当することにより女性への配慮が一つできるようになった。CTの設置と鎮静剤を含めた内視鏡検査がセンター内で完結することにより屋外への移動がほぼ無くなったことから受診者の利便性が増すとともに検査件数の増加を見込めることになった。更にセンター内に春回会クリニックが開業し二次健診への新たな展望が開けることになった。

今回の移転に際し職員数特に女性技師が増えたことにより、今までより多くの健診者を迎える体制が整うと共に女性健診者に対する配慮がまた一つ加わった。常勤の医師数も4人から6人に増え、2018年度からは7人体制となり精度管理を含め更なる飛躍を期している。

施設概要について

小川　隆

春回会クリニックは、春回会グループの4番目の医療施設として目覚町に昨年10月に開院いたしました。主な業務は健診事業です。健診センターの特徴は、男性と女性のフロアがわかれていることです。このスタイルは長崎県下では初めての試みと思います。長崎の女性の受診率の向上を目的とし、月曜～土曜日の毎日乳がん・子宮がん検診が実施可能となるような体制を整えていることが、この試みの大きな想いです。

健診施設としては、専従の医療スタッフが医師・保健師・看護師・コメディカルの約50名で日々の健診業務に対応しております。また、保健師による健診後の企業訪問等により、指導の充実を図るために活動をいたしております。春回会クリニックでは、『やりっぱなし健診の防止』への取り組みとして、健診後のフォロー充実をめざしているところです。

男性はもとより女性にやさしく受診しやすい健診センターめざし、日々スタッフ一同が健診を通して地域健康を目指して『地域に貢献』を最大の目標に努力をしているところです。

TOPICS

―10月に移転スタート！―

春回会クリニック　健診部は2017年9月に宝町から目覚町に移転して10月からスタートしました。

コンセプトとして男女が別々のフロアで健診を受けられるようにと5階が女性・6階が男性フロアとなっていて、検査の待ち時間も快適な環境を提供することができるようになりました。特に女性からは男女別になってとても良いとのご意見を多くいただいています。

内視鏡室・エコー室・透視室・CT室に関しては5階に設置してありますが入口が男女別になっています。

内視鏡検査では以前はできなかった鎮静剤ありの胃カメラも、リカバリー室を設けベッドを8台設置して対応できるようになりました。

CT検査装置も新たに導入されており、以前は健診者が病院まで移動して検査をしていた肺がん検診なども健診施設内で撮影することが可能になっています。

―健診センターに併設して春回会クリニックを新たに開設―

健診センター移転の際に、2017年10月より目覚町のHCSビルの6階に、健診センターに併設して春回会クリニックを新たに開設しました。

春回会クリニックでは、主に健診後のフォローとして診療を行っております。

胃カメラ後にピロリ菌検査の指示が出た方や、医師面談等にて検査データのパニック値や異常値が出た方等については、健診当日の検査終了した後にすぐに春回会クリニックに受診していただいております。精密検査や治療が必要な方への対応がすぐにできる体制を心掛けて診療に取り組んでおります。また、春回会クリニックで対応困難な方については、井上病院の協力により連携をとって、対応できる体制を整えていくよう努力をしております。

クリニック/健診

写真で見る健診センター概要

《受　付》
人間ドックや健康診断の
受付・会計を行います。

《男性フロア・ラウンジ》
男性フロアでは実施する各検査室・
診察室・問診室の中央に待合椅子があり、
各検査からお声掛けして、
直ぐに検査開始することができます。

**《女性フロア・婦人科・
乳腺エコー・マンモ
グラフィ・ラウンジ》**
女性のみのフロアなの
で、ゆったりした雰囲気
でリラックスして検査
を受けることができ
ます。

《クリニック》
5名の医師で、再検査を主に
診察・検査を実施しています。

《内視鏡室》
内視鏡室 4室
上部内視鏡 15本
下部内視鏡 2本
以上を配置して1日40件を目標に3名の医師で実施しています。

《一般撮影・MDL・CT室》
一般撮影は日立のRadnext32を設置して、
男性と女性のフロアーにそれぞれ一台ずつ
あります。
胃透視検査は1日10 ～ 15件実施
CTは主に肺がん検診や二次健診の精査目的
として使用していますが、今後は大腸CT
検査にも活用していく予定です。

《エコー・眼底・眼圧・肺機能・内臓脂肪》
男女別フロアに伴い、エコー室は入口が男性・
女性別になっている男女兼用2部屋と女性フロア
に専用2部屋で検査を行っています。その他の
眼底・眼圧、肺機能、脈波図、内臓脂肪の
検査室も男性・女性入室扉が別になっており、
完全個室のため健診者に快適な検査環境を
提供できます。

地域在宅支援センター

地域在宅支援センター
センター長　瀬戸　信二

医療と介護が手を携えて

私ども春回会は、地域に最適な医療・介護 support と safety net の提供を目標とし、約1年半前新たに介護の分野に進出しました。そこで、医療専門の春回会が何故介護の世界に進出したのか、どのようなスタンスで取り組んでいくかを簡述したいと思います。

我が国は急速に高齢化が進行しており、その過程で、医療・介護の世界でもパラダイムシフトが起きています。即ち、地域住民の健康･生命を支えるには、医療のみでは不十分となり、介護がもう一つの柱とならざるを得なくなってきたのです。

このような状況を踏まえ、私どもは、医療と介護は手を携えねばならない、さらにそのことで、ともに進歩・発展して行けるという信念を持ち、在宅支援センターを設立し、育て、歩んでいく決心をしました。

この設立は、地域住民には勿論、医療側・センター側双方にも、大きなメリットがあり、そのメリットを生かしていかねばなりません。病院がすぐ背後に控えているという強み、また、単なる介護施設ではなく、医療・介護の方針に苦慮している要介護者の受け皿としても機能するセンター、各々がその役割を果たしてくことが期待されています。

施設自体のレベルアップ、病院・かかりつけ医との連携、職員への継続的な教育など、まだまだ多くの課題を抱え、道半ばでありますが、「やさしくかつ敬いながら注意深く見守り助けていく」という私どもの介護に対する精神を忘れずに着実に発展していかねばと強く思っています。

春回会地域在宅支援センターの設置
～垣根を超えた連携を目指して～

地域在宅支援センター　原田　直樹

春回会地域在宅支援センターは平成29年11月に設置されました。春回会グループの社是である「医療と介護を通じて地域へ安心を提供する」を実現するため法人内、地域との連携を推進する役割を担っています。地域在宅支援センターは図に示すように通常の組織とは違い、春回会グループ内の事業所が集まっています。これを私たちは機能的組織図と呼んでいます。3つの支援部で構成されていますが、各事業所が法人、専門性、部門の垣根を越えて有機的に機能し、利用者様がサービスの隙間に陥ることなく在宅生活の限界点を高めることを使命として活動を行っています。在宅生活における支援のみでなく、入退院時の医療との情報共有など多職種協働を行うことで円滑な生活を支援できる取り組みを強化しています。

各事業所が「顔が見える関係」と言えるまでには至っていませんが、利用者様を通じてその関係は構築されてきつつあります。今後も一歩一歩確実に前へ進むよう努力をしてまいりますので、地域在宅支援センターをよろしくお願いいたします。

地域在宅支援センター 機能的組織図

地域在宅支援センター

「在宅専門職」としての人財育成を目指す

地域在宅支援センター　教育担当　金子　京美

超高齢化社会を迎え、医療・介護が必要な高齢者を限られた社会資源で支えていくことは日本における大きな課題であり、高齢者を地域で支える地域包括ケアシステム推進には、多様で複雑なニーズに対応でき、より質の高い支援を実施できる在宅の専門職としての人財が求められています。

春回会地域在宅支援センターでは、他分野・多職種と連携をし、質の高いケア提供を実施できる在宅分野の専門職育成を目指し、教育プログラムを立案、実施しています。

また、重度化している在宅医療に対応をするべく、介護職員が吸引や経管栄養に対応できるよう、法人に「喀痰吸引等研修」を立ち上げ、平成29年度は16名の介護職員が吸引実施資格取得、次年度も引き続き実施し、全介護職員の資格取得を目指し研修を実施していきます。

訪問看護ステーションひまわりについて

訪問看護ステーション“ひまわり”は、長崎市北部及び時津町、長与町地域を中心に訪問看護を提供しています。職員は、看護師８名、理学療法士６名、作業療法士２名、事務職員1名の体制です。平成29年度の月平均利用者は、209.4名。月平均訪問件数は、1,245件でした。利用者の約7割が、地域の医療機関からの指示にて訪問看護を行っています。脳血管障害の利用者が最も多く全体の３５％前後を占め、次に神経難病の利用者が２５％前後の状況です。神経難病等で人工呼吸器を装着している方など、医療依存度の高い利用者も多い事やリハビリスタッフが充実していることが当ステーションの特徴です。また、平成29年度は２校の看護学生と医学部学生の実習の受け入れや、地域包括支援センターの事業への協力等を実施し、人材育成、地域住民への情報提供などにも積極的に取り組んでいます。

平成30年度の医療介護報酬改正に伴い、次年度はリハビリスタッフの体制を大きく変化させることになりますが、これまで以上に、地域の方々へ安心を提供できるよう又地域包括システムの中心的な役割を担っていけるよう頑張っていきたいと考えています。

住宅型有料老人ホーム春の家

住宅型有料老人ホーム春の家は現在長崎北部（長与町・時津町）を中心に春の家ながよ壱番館・弐番館と春の家ゆりの、春の家とぎつの4施設を運営しています。住宅型有料老人ホームという事業形態は比較的介護度の低い方に入居いただくのが通常ですが、職員の介護に対するスキルアップ向上と施設に求められるニーズにできる限りお応えできるように取り組んでいます。法人内外の研修にも積極的に参加し、昨年より委員会活動（事故虐待防止、感染対策、ケア）も開始しています。以前は入居対象外となっていた喀痰吸引が必要な方の受け入れに関しても、職員の不特定喀痰吸引研修が終了し受け入れ可能となりました。また同時にケアプランセンター・訪問看護/訪問リハビリ、デイケア等　春回会グループの各介護事業とも連携し、トータルな介護サービスを目指しています。今後の課題としましては地域との連携や情報発信です。医療連携がとれる施設、個別ケアに対応できる施設「春の家」の魅力をどんどん発信していきます。

住宅型有料老人ホーム春の家　概要

施設名

春の家ながよ壱番館・弐番館・春の家ゆりの・春の家とぎつ

入居定員

各施設16名（全室個室）

設備

介護用ベッド、ナースコール、トイレ、エアコン等を標準装備しています

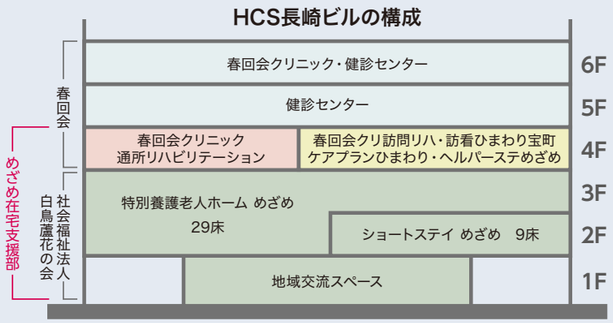
春の家はアパートと同じように自分の部屋を借り、訪問介護や通所リハビリテーションなどの介護サービスを利用して生活するスタイルのホームです。 春の家のスタッフは春回会グループの訪問介護業務と兼務しており、生活を支援している馴染みのスタッフが介護についても担当しています。これにより連携して細やかなサービス提供で暮らしを支えることが可能となっています。

春の家は、2017年3月から春回会グループの仲間入りをしました。施設名称もたくさんの職員公募のなかから「春のようにあたたかく、穏やかで心地よい場所になるように」という願いを込めて、春の家と名付けられました。

地域在宅支援センター

めざめ在宅支援部

HCS長崎ビル　全景



施設の概要

ケアプランセンターひまわり

ケアプランセンターひまわりは、居宅介護支援サービスを行う事業所です。ご利用者の依頼に応じ、ケアプランの作成、介護サービス事業者との連絡調整等を行います。私達ケアマネジャーの一番の願いは、ご利用者が住み慣れた家でいつまでも自分らしく生活して頂くことです。事業所再開3年目を迎え、ケアマネジャー3名、相談受付総数163件とまだ小さな事業所ですが、居宅介護支援の能力向上に努めています。

春回会クリニック通所リハビリテーション

◎営業日：月曜～金曜　提供時間：6 ～ 8時間
◎送迎範囲：車で20分圏内
◎従業者：理学療法士3名、作業療法士3名、
　看護師1名、介護福祉士4名、介護士4名

前身の井上病院から提供時間を変更し2017年11月より移転しました。医療依存度に左右されることなくそのひとに必要なリハビリテーションを提供し心身機能・生活機能の向上を図り、そのひとらしさのある暮らしを支えることを使命としています。

４階　通所リハビリテーション

春回会クリニック訪問リハビリテーション

◎営業日：月曜～土曜　訪問範囲：車で15分圏内
◎従業者：理学療法士4名、作業療法士2名、
　言語聴覚士1名

当事業所は2008年に井上病院訪問リハとして開設、訪問看護ステーションひまわり宝町を経て、2017年10月に春回会クリニック訪問リハとして移転しました。100名程のご利用者をかかえ、その方々がそのひとらしく、活き活きとした生活を送れるよう、リハビリテーションの立場から支援しています。

訪問看護ステーションひまわり宝町

当事業所は、訪問看護ステーション“ひまわり”のサテライトとして、訪問看護サービスの提供を行っています。2017年10月に、リハビリスタッフが拠点を変更し、以後、管理者と看護師４名で活動しています。10月以降の月平均利用者は、55.8人。訪問のエリアは、片淵、長崎、江平、山里、西浦上、三川、淵、小江原の各中学校区域です。在宅療養をしているご利用者及びそのご家族に、安心を提供できるよう24時間対応をとり、自宅での看取りもできる体制となっています。

ヘルパーステーションめざめ

春回会の訪問介護事業所として、平成28年4月に開設しました。職員はサービス提供責任者3名、常勤ヘルパー2名、事務員1名、登録ヘルパー 11名です。ご利用者の住み慣れた地域社会、ご自宅での自立した安心安全な在宅生活を支えます。ご利用者、ご家族に満足していただけるように、今後ますます医療、看護と連携し、介護技術、専門性を向上し、地域社会で必要とされる事業所を目指してまいります。

特別養護老人ホームめざめ

入居対象者：長崎市内在住の方で要介護3以上の方
　　定員29名
特徴：ユニット個室型　1ユニット9~10名　3ユニット
　　（あさひ・こもれび・つむぎ）

各居室に酸素、吸引ができる設備を完備、看護師の夜勤体制により医療的ケアが必要な方も入居されています。24時間、最期の時までお一人お一人の暮らしに合わせたケアの提供を目指しています。

ショートステイめざめ

利用対象者：介護保険をお持ちの方
定員9名　送迎時間30分以内　一月30日を限度
特徴：在宅介護のレスパイト、機能訓練、退院時の在宅復帰調整目的など様々な目的でご利用頂いています。特養同様医療的ケアがある方も対応し、在宅での生活とショートステイでの生活が一連のものとなるように支援します。

２・３階　特養およびショートめざめの居室

TOPICS

―組織発足―

2017年9月目覚町にHCS長崎ビルが完成しました。健診センターと介護保険の7事業所が入った複合施設で、4階以下の階が『めざめ在宅支援部』となり、4階の5事業所（居宅介護支援、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリ）が『社会医療法人春回会』、3階以下の2事業所（特養、ショートステイ）が『社会福祉法人白鳥蘆花の会』です。地域在宅支援センターは機能的組織とされており、事業所や法人を越え、横断的に大きなひとつの組織体として運営をしていくとの命題を理事長よりいただきました。

―法人間連携―

今回発足した社会福祉法人白鳥蘆花の会は、同じ法人グループですが春回会とは別法人ですので、人や物の流動的な支援は許されていません。ただし特養めざめの配置医師は井上病院ですし、私共が目指すのは医療依存度の高い方も受け入れる特養をつくろうというものです。そのためには医療的なサポートなしでは運用できませんから、法令遵守した上でどう実現していくか、整理、工夫していきました。このような仕組みが実現できたのは、井上病院や健診センターの職員から、大きな支援をいただいたからだと思います。この感謝の気持ちをお返しするためには、私たちが組織として成長して、業務の成果を出し恩返しをしていきたいと考えています。

―取り組み―

ご利用者に関する連携はもちろん、複数の事業所が一か所にあることの強みを活かすいくつかの活動を行っています。

《症例検討会》

めざめ在宅支援部全体にて月に1回開催しています。まずは上手くいった症例を共有することで、お互いの長所を知り、他の事業所に自信をもって紹介していきたいと考えています。

《交流研修》

リハ職種の連携として、井上病院リハスタッフを通所リハへ交流研修として受け入れています。急性期のスタッフが介護保険のリハビリテーションを経験する場を提供していきたいと思います。

《もちつき大会》

年末には地域交流スペースで、特養入居者や地域の方々と一緒にもちつき大会をしました。私達が地域包括ケアシステムの中心的な役割を担って行けるような活動を今後も続けていきたいと考えています。

合同入社式

長崎北病院の前にはサンロードと名付けた桜並木が広がっています。
2017年4月1日　サンロードの桜の花が満開な良き日に、長崎北病院にて春回会グループの入社式が執り行われました。今年度は87名の新入職員が春回会グループの仲間入りをしました。

入社式では井上理事長より訓示のお言葉があり新入職員はもちろん在職職員においても、春回会グループの一員として更なる飛躍ができるよう身の引き締まる思いとなった式となりました。

入職後、研修を受けて各々の業務に従事します。「医療・介護を通じて安心を提供する」という社是のもと、初心を忘れず活躍していただくことを願っています。

所　属	職　種	人数
井上病院	看護職（看護助手含む）	15
	検査技師	1
	放射線技師	3
	臨床工学士	1
	介護福祉士	3
	事務職	5
長崎北病院	看護職（看護助手含む）	29
	セラピスト（PT・OT・ST）	19
	放射線技師	1
出島病院	看護師	4
健診センター	事務職	4
	看護師	1
地域在宅支援センター	セラピスト	1

合同研究発表会

2018年2月10日、長崎北病院にて「第33回春回会合同研究発表会」が開催されました。

今年度から発足した地域在宅支援センターを含む4拠点から合計で8演題が発表されました。各事業所の様々な職種から演題発表があり、知識を得られるだけでなく、職種間・施設間の理解を深める場となりました。

演　題	発表者
自宅退院へ向けた料理教室の取り組み ～嚥下食に焦点をあてて～	長崎北病院 栄養科
長崎北病院パーキンソン病体操DVDを用いた 在宅PD患者に対する自主練習定着への取り組み	長崎北病院 総合リハビリテーション部
臨床心理科の取り組みと今後の課題 ～認知検査実施数の推移から～	長崎北病院 臨床心理科
訪問看護ステーションひまわりにおける 24時間対応体制の現状の報告 ～過去10年間の時間外訪問を集計して～	地域在宅支援センター 訪問看護ステーションひまわり　岩屋
退院後訪問支援活動でみえてきたもの	井上病院 リハビリテーション科
当院における外出支援について	出島病院 リハビリテーション科
整形外科手術導入までの取り組みと現状報告	井上病院 手術室
めざめ在宅支援部キックオフ ～春回会グループにおける事業所連携～	地域在宅支援センター めざめ在宅支援部

地域活動

友好姉妹法人協定書

国内姉妹提携病院の締結を行いました

2017年（平成29年）10月18日に、春回会グループは社会医療法人祐愛会（織田病院：佐賀県鹿島市）と社会医療法人聖医会（サザン・リージョン病院：鹿児島県枕崎市）と姉妹病院の締結を行いました。

今後は、それぞれの地域で医療の質を向上し、効率化を進めていくことを目的として、病院及び介護事業所相互の人材交流・情報交換・共同研修会・各部門の交流などを進めます。

春回会　井上理事長　　祐愛会　織田理事長　　聖医会　牧角理事長

Data

井上病院

診療実績

	2017年度	2016年度
外来件数	68,725	64,190
初診数	8,525	7,899
入院延日数	42,020	40,399
新入院件数	3,863	3,475
平均在院日数	11.0	12.6
病床稼働率	103.2%	98.8%
救急車件数	1,054	840
PSG総検査	413	411
透析件数	6,365	6,375

手術件数	2017年度	2016年度
外科	172	196
形成外科	36	41
整形外科	500	0
眼科	364	357
他	6	8
合　　計	1,078	602

退院先	2017年度	2016年度
自宅	3,093	2,908
施設	332	267
転院（春回会内）	124	40
転院	204	152
その他	116	98
合　　計	3,869	3,465

学会発表件数

	2017年度	2016年度
医局	17	12
看護部	2	4
リハビリ	1	1
検査	2	3
他部署	0	1

出島病院

診療実績

			2017年度	2016年度
外来延べ件数			3,591	4,397
（）は緩和外来件数			(237)	(299)
面談件数			403	333
入院件数（転入除く）			390	393
緩和病棟	入院経路	自宅	25	39
		施設	0	5
		病院	58	78
一般病棟	入院経路	自宅	140	151
		施設	11	19
		病院	156	101
平均在院日数	緩和病棟		29.7日	27.9日
	一般病棟		13.7日	10.2日
病床稼働率	緩和病棟		99.0%	97.4%
	一般病棟		55.7%	37.0%

学会発表件数

学会等発表件数	2017年度	2017年度 他（著書・論文等）	2016年度	2016年度 他（著書・論文等）
医局	13	2	1	0
看護部	10	1	8	0
リハビリテーション科	3	0	6	0
地域医療連携室	0	0	1	0

長崎北病院

診療実績

病院指標	2017年度	2016年度
外来件数	37,085	37,850
初診数	3,728	4,128
入院延日数	70,620	71,080
病床稼働率	96.7%	97.4%
新入院件数	1,581	1,672

画像件数	2017年度	2016年度
MRI	3,227	3,323
CT	1,921	2,041
RI	967	1,037

退院先	2017年度	2016年度
自宅	1,072	1,204
施設	270	283
転院(春回会内)	37	17
転院	125	102
その他	79	77

リハビリ単位数	2017年度	2016年度
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	284,293	302,781
廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）	10,855	12,681
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	99,782	84,563
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	14,143	8,675
心大血管リハビリテーション料（Ⅰ）	20	143
がん患者リハビリテーション料	0	24

学会発表件数

	2017年度	2016年度
医局	12	11
看護部	6	7
リハビリ	16	23
検査	2	1
他部署	5	3

地域在宅支援センター

在宅支援実績

	居宅	通所リハ	訪問リハ	ヘルパーステーション	訪問看護 宝町	訪問看護 岩屋
延人数		1,489（11～3月）	2,815（10月～3月）	8,988	6,842	14,942
実人数/月	57.5	63.8	100.3	114	137.8（4～9月） 55.8（10～3月）	209.4
平均介護度	1.9	2.2（要支援除く）	2.4（要支援除く）	2.0（要支援除く）	2.5（要支援及び医療保険対象者を除く）	2.7（要支援及び医療保険対象者を除く）

	特養めざめ	ショートめざめ	春の家
稼働率	86%	84%	78.95%
実人数/月	29	24.2	50.6（満床が64床）
平均介護度	4.3	3.4	2.85

健診/クリニック

健診受診状況　2017年度

		男　性	女　性	計
ドック	一泊コース	146	99	245
	日帰りコース	1,828	1,933	3,761
	脳	27	39	66
	レディース		301	301
協会けんぽ		3,202	2,502	5,704
生活習慣病検診		966	938	1,904
企業検診		4,864	5,712	10,576
がん検診		203	777	980
その他検診		728	949	1,677
保健指導（延指導者）		118	37	155
合　計		12,082	13,287	25,369

女性受診者状況

女性受診者状況	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度
総数	13,282	12,908	12,312	11,569	10,466
レディースドック	301	262	313	298	321
協会けんぽ 子宮がん検診	852	901	706	692	542

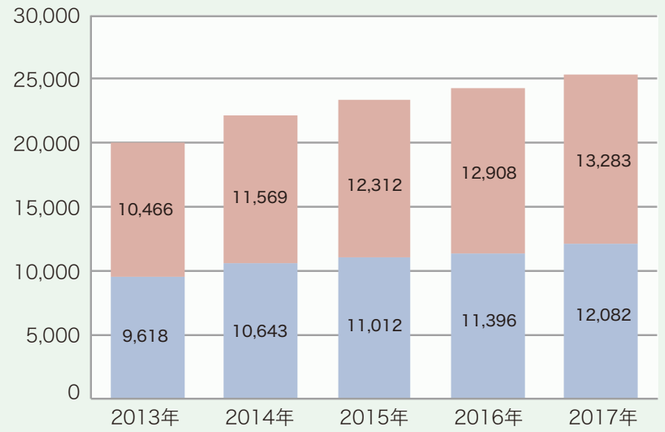
女性項目の受診数

	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度
受診者数	13,283	12,908	12,312	11,569	10,466
乳腺エコー	1,712	1,673	1,419	1,226	1,194
マンモグラフィー	3,194	3,213	3,048	2,779	2,635
子宮がん	4,447	4,401	4,004	3,696	3,377
婦人科エコー	307	276	327	293	302
レディスドック(再掲)	301	262	313	298	321

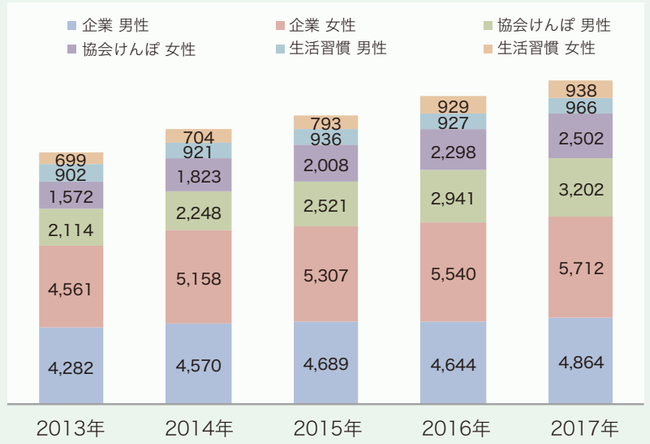
主な検査項目

		2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度
X-P	胸部X-P	21,284	20,359	19,060	17,836	16,354
	胃透視	2,050	1,964	1,905	1,656	1,683
	MRI	346	337	314	309	320
	胸部CT	558	584	595	412	511
	マンモグラフィー	3,194	3,213	3,048	2,779	2,635
超音波	頚　部	353	402	223	275	194
	心　臓	420	427	454	476	332
	乳　腺	1,712	673	1,419	1,226	1,194
	腹　部	5,429	5,402	5,095	4,636	4,320
	婦人科	307	276	327	293	302
内視鏡	胃内視鏡	8,834	8,632	7,801	7,172	6,393
	再掲センター実施	4,355	4,283	3,745	3,079	2,833
	大腸内視鏡	244	262	296	277	268
循環器系	心電図	18,404	17,600	16,298	15,212	13,899
	血圧脈波測	481	522	505	416	402
眼科系	眼底カメラ	5,110	5,049	4,664	4,199	3,877
	眼圧測定	3,515	3,414	3,170	2,943	2,659
その他	内臓脂肪測定	420	405	384	457	364
	骨密度	2,095	963	1,841	1,687	1,642
	肺機能	3,721	3,687	3,340	3,033	2,783
	糖負荷	250	271	280	258	274

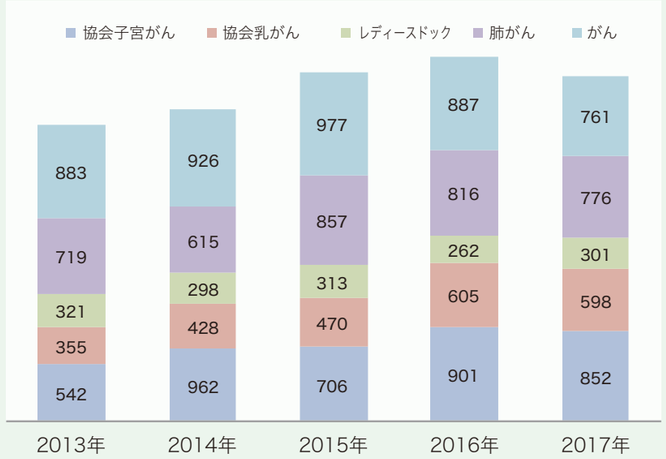
5年間の受診者推移



協会・生活習慣病・企業受診者の推移



がん検診受診者の推移



2017年度
入職者インタビュー

質問内容

①春回会に入職した理由
②1年を振り返って
③今後の目標

井上病院

川口 聖美
第2病棟（看護師）

①学生の頃に、実際に病院実習で関わらせていただき、病院内の雰囲気や患者さんからの評判等がよかったため入職を希望させていただきました。

②初めは慣れていない事が多く、不安でしたが病棟へ入る前に約1か月間の研修があり、看護技術等を振り返る事で、自信を付ける事ができました。

また、私は両耳難聴で補聴器をつけており不安なことが多くありましたが、不安な事は先輩方へ質問もしやすくアドバイス等も頂き、働きやすくとてもいい環境です。

③患者さんの心に寄り添い、誰からも信頼される看護師になります。

山瀬 未来
事務管理部

①高校に届いていた求人を見て興味を持ちました。ホームページで社是や理念を見た時に私もこのチームの一員として働きたいと思いました。

②あっという間に一年が経ちました。最初はとても不安でしたが、先輩方が優しくサポートして下さるおかげで、落ち着いて業務に取り組むことが出来ています。

③どんな時でも思いやりのある対応を心がけ、自分の行っている業務の幅を広げていきたいです。

長崎北病院

三宅　達郎
放射線科

①学生時代に恩師から、『長崎北病院は神経内科に力を注いでおり、私にとって学べることが必ず多くある』と助言をいただき入職を希望しました。

②様々な場面で迷うことが多々ありました。その中でも診療放射線技師の裁量で判断しなければいけない場面が多く、医療職として自分の責任の重さについて再認識しました。

③私が諸先輩方に助言をいただく際に、皆さんが判断の基準にされていたのは長崎北病院の理念である『Patient First』でした。

それは全ての患者さんの検査に対して一律な判断をするのではなく、経験に基づいて患者さん一人一人にとって最良な判断をしようとするものでした。

私も早くこのような仕事が出来るように経験を積みたいと思います。

前﨑　はるか
総合リハビリテーション部

①私は学生時代に、長期実習生として長崎北病院で二ヶ月間学ばせていただきました。

その時の指導していただいた療法士の、患者さんに向き合う姿勢と患者さんとの信頼関係をみて、この病院で一緒に働き学びたいと思いました。

また、地域に密着した関わりを大切にしているところにも魅力を感じました。

②一年目は回復期病棟において、退院までの準備や在宅スタッフとの連携の大切さを学びました。　今年度は、一般病棟において、リスク管理等の制限があるなかで、『患者さんが楽しい時間を過ごす』ことを念頭において患者さんに関わっています。

また、部署に関係なく一緒に悩み解決できるよう関わって下さる先輩方に感謝しています。

③私が先輩方に支えていただいたように、二年目の私らしく後輩と関わり支えられるようになりたいと思います。

また、身体面だけでなく精神面においても、患者さんやそのご家族に安心感を与えられる職員になれるよう励みたいと思います。

出島病院

太田 直美
看護部（看護師）

①休職中に緩和ケアについて考える機会があり、県内でも数少ない緩和医療を行っている出島病院に興味を持ち、出島病院に入職しました。

②入職した頃から現在まで特に変わりはありませんが、日々、業務に追われながらも、患者様に良質な緩和ケアを提供したい思いで頑張っています。

③日々、多方面から色々なことを学ばせてもらっています。患者様に少しでも「ここに来て良かった」と思っていただけるケアを提供できればと思っています。

地域在宅支援センター

八木 倫子
特別養護老人ホーム めざめ

①医療系の施設で、介護する上での適切な医療的ケア、看取りケアの勉強をしたいと思い、入職しました。

②ユニットケアを実施する施設として、手探りの状態であったため、とても大変な1年でした。ユニットリーダーを務めさせていただく上で、改めてユニットケアについて考えさせられ、どのように実施していくべきなのか悩みながら入居者と向き合った1年でした。

③ユニットケアについての勉強をしっかりやりたいと思います。そして、めざめの職員がしっかりとユニットケアを理解し、入居者、利用者一人ひとりと向き合い、寄り添った支援を実施できる施設にしていきたいです。

クリニック／健診センター

松永 尚文
健診・クリニック

①長崎大学放射線科に17年間、山口大学放射線科に23年間在職し、郷里に帰ってきました。当時、井上病院には非常勤でCTの読影や血管造影・カテーテル治療にもよく来ていまして、馴染み深い病院でしたので、平成29年4月から勤務しています。

②健診センターは、宝町から目覚町に新築移転し、更に量・質ともに発展し続けています。

③画像診断の更なる質の向上に努めていきたいと思います。また、平成30年秋からは、大腸CT検査が本格稼働予定です。